第四回原田伴彦賞　選評

原田伴彦賞選考委員会
代表　奈良本辰也

一四点の応募論文があった第四回原田伴彦賞に関する選考結果は、左記の通りである。入選作の選評を以下、掲載する。

入選　荒木　謙『破戒のモデル　大江磯吉の生涯』（解放出版、一九九六年一二月）

佳作　なし

奨励作　なし

●入選該当理由●

第四回原田伴彦賞の入選作　荒木謙『大江磯吉の生涯』についての入選理由についてのべたい。

今回、提出された作品数は一四点に及んだが歴史評論的・随筆的な小品が多く、そのなかで荒木氏の作品は質・量とも群をぬいていたといえよう。この点は第二回の入選者・和田氏の場合と同様であった。

まず、この著作について若干の内容紹介からはじめると、序章では、モデルとされる大江磯吉の簡単な生涯と藤村の「破戒」のあらすじがのべられ、第一章では磯吉の生い立ちから学生―長野師範学校生―東京高等師範学校生―長野県での教諭―放逐―大阪師範学校教諭の時期を扱っている。ついで、第二章では、大阪で「素性」をあばかれ、師友の紹介で鳥取師範へ転職した時期で、充実した教育実践にとりくんだが校長の教育方針と対立するなかで再度、兵庫の柏原中学校

校長に赴任する。そのなかでわずか一年有余、郷里の母の病気看護と感染のなかで死没す（第三章）。さらに第四章は、藤村の「破戒」研究とその評価をめぐる研究史的整理と運動側の対応をめぐって筆者の立場をのべている。最後は、筆者が第二・三章で使用した大江の諸論文（既発表）、その他、追悼文、引用文献、年譜などを収録しており読者の判断と参考に資するものになっている。

ところで、具体的な内容の評価と疑点を簡単に記しておくと左記のようになる。もちろん荒木氏から反論と評価の力点のちがいなどをめぐって意見が出るものと思われるが今後の追求に期待したい。

まず、菊池山哉の論作などを利用して出自にまつわる問題として「番太」と百姓のちがいをのべておられるが、依拠されている信州での「番太と非人」研究にもっと位置づけられた方がよかったと思われる。ついで大江の生地での生活態度を「卑屈」な態度といえないとするとき、あの謙譲にみちた態度に一種の誇りを見出すとされるのだが、いま一歩つっこんだ分析がほしかった。この点は大江の生涯にまとわりつづけた姿勢でもあり他の「明治人」の共通の精神にも思えるがいかがなものか。ついで一般家庭への「養子」問題がいま少し不明な点である。ここにも「明治人」の気概をみるのだが、周辺のエリート意識（士族意識と明治啓蒙主義）の存在とも関連し興味ぶかいので分析を深めてほしかった。また、大阪時代、士族の娘と結婚したが、相手の積極的承諾があったという点も、先述の思考や精神と重なる点で今後、追求を重ねてほしい個所である。

ついで荒木氏の最もこの本で寄与された点である「自由と抑制」論文（二九六～三〇一頁）の思想的位置づけである。大阪～鳥取にかけて大江の到達点はフランス自由主義的教育論の日本への適用・具体化にあるとするのが荒木著作の中核をなしている。そして大阪時代から「素性」が露見しても居なおって行動する強さをもつこと、その自信が学校教育や行動に反映しており、とりわけ高い語学能力と教育学的著作にその反映がみられるとした点など、これまでの論作にないものを提出したといえよう。今後の論争を期待したい。

なお、第三章では長野・東京師範学校以来の教育界の網のなかで部落出身者でありながら周辺の差別を超えていく姿が描かれており、学生や老母、妻に対する人間的なありようもあいまって感動的な描写になっている。

最後になるが、『破戒』をめぐって近代文学者からする『破戒』モデル論（例えば丑松は北村透谷像を重ねたとする考え方）と現実のモデルと確認されつつある大江礒吉との落差はもっと問われてよいと思われる。評者がこの業績からみるかぎり、近代の理想像透谷と理想をもちながら現実に生きている礒吉の間に質的なズレがあるように思えるのだが如何なものか。

なお、藤村と「破戒」のモデルをめぐる明治文学界での評判や、その後のモデル論争は荒木氏の依拠した先学の論著作や論文を参考にすることで、つまり、大江礒吉の登場で一つの画期をなすといえよう。

最後に論の組み立ての主柱となっている明治の部落改善運動に対する批判的評価（井上清氏）と、荒木氏が依拠した諸事実と高い評価を与えた大江評価とはどのような整合性をもつのかについての疑点がのこったことをのべておきたい。

（秋定嘉和・池坊短期大学）

国際人権
——知る・調べる・与える
山崎公士

〈主な内容〉
一、知る～アジア諸国、日本で広がる人権侵害　世界の人権状況と国際人権の基準と実施のしくみ　二、調べる～調べる道具と方法　インターネットの活用　三、考える～国際人権から日本を見る　世界の人権問題と世界人権会議　国際関係と国際人権
（定価一八〇〇円＋税、A5判一五〇頁）